慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ケタ象形文字の解讀近し
Sub Title	
Author	平山, 榮一(Hirayama, Eiichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.15, No.4 (1937. 2) ,p.114(626)- 114(626)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370200-0114

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ケタ象形文字の解讀近し

長らく多數の研究者を苦しめてゐたケタ象形文字の解讀はこの程達成されたと考へてよいほど決定的に重要な進展を遂げた。それについてコントノー（G. Contenau）氏は Revue historique, Mai-Juin 1936 に大體次の樣に報じてゐるが M. E. Dhorme, Où est e déchiffrement des hiéroglyphes hittites? in Syria, XIV (1933), p. 341－367 にはもつと詳しく記されてゐる。

ケタのテキストは楔形文字で書かれた分は解讀されてゐたのに、その象形文字で書かれた分は未だ征服されてゐなかつた。このテキストは多數に存在し、カルケミシュの發掘により非常に增加してゐるので、それは遺憾のことであつた。

この文字は、多少拙なる動物、人、或はその體軀の一部分及び若干のそれと定め難い物象を描く象形文字であらはされてゐる。この文字は符號物象の前面の向きより始め、次いで耕地の畝の如く一線が終ればすぐ下の他線へと折返して（左から右、右から左へと）讀まれる。特殊の符號は表意文字や人物の名をあらはし、また語を分つ。この文字はメソポタミヤの文字の如く、表意文字と綴字が混合してゐるので、容易に區別し難い。そして最初の努力は、すべての變化を復原すべき表意文字の數を決定することであつた。

これはイギリスの考古學者セースの業績であつて、彼は正確な解讀方法として二國語の碑銘を採用した。不幸にして、選ばれた碑銘卽ちケタ語の楔形文字で書かれた傳說なるタルコンデモス（Tarkondémos）の印章は、誤り解せられた楔形文字の符號を含んでゐた。解讀の鍵を與ふべき碑銘の首字は誤讀され、結果は離れたものとなつた。しかしセースは若干の符號の原音（valeur）特に表意文字のそれを示し、若干の正しい讀み方に成功した。最近の試案に到達するため、それと殆んど同時代の試案を概觀すれば、それらは P. Meriggi, I. J. Gelb, Forrer, Bossert, Hrozny に負うてゐる。それらは符號の讀み方から、同時にそれらの符號があらはす言語の考察に達した。これらすべての點に於て得られた結果に一致は無いが、合致の程度は問題が殆んど解決されたといつてよいほどである。讀み方には最早や詳細の點に就いて修正を要するものは無い。我々は綴字の確定のために、町や王の固有名詞の研究を提供した補助を注意しよう。綴字の原音決定の最初の結果は、宗教的な光景をあらはす浮彫を非常に多く伴ふ神の名の讀み方を可能ならしめた。故にこれらの研究に多くの期待がかけられる。そして上シリヤ及びアナトリヤの碑銘の全體が、紀元前二千年紀末及び一千年紀初の歷史に對し、新たなる資料を提供する日が來ることは遠くはないであらう。（平山榮一）